源清流清

令和７年２月１日
第 12 号
ときわ会東蒲・五泉支部
広　報　委　員　会

【The Sound of Silence】
水墨画の世界に迷い込んだ気がした。しかし水面に赤い欄干がかすかに揺れたことで、眼前が紛れもなく天然色であることを再確認できた。しばらくすると、心地よい静寂が聞こえてきた。
（2024.1.14　阿賀町麒麟橋）
五泉市立川東小学校　佐藤 将臣（H10年度）

言葉と声に架かる橋

副支部長　小 野 裕 子（H２年度）

平易な言葉、優しいリズム、柔らかく強く届く言葉に子どもたちの声が重なります。いつ届くかもわからない投便通信として詩人から届けられた言葉に、子どもたちが息吹を吹き込みます。言葉と声に架かる虹の余韻が、体の底に揺れて降りてきて、その心地よさを知った瞬間から、この仕事を辞められなくなった気がしています。

「大空、青空、曇り空、雨空」新しいことへの適応に追われ、空を見上げる余裕もない今。言葉の力を信じた詩人の逝去に、空ひとつとっても様々な表情とそのための表現があることを思い出しました。言葉と声に虹が架かったその上空は、晴れやかに澄みわたっていることを願ってやみません。

いるか　　谷川俊太郎

いるかいるか　いないかいるか
いないいないいるか
いつならいるか
よるならいるか　またきてみるか

子どもたちの体が、自然にリズムに合わせて動き、言葉と一体化しました。

生きる　　谷川俊太郎

生きているということ
いま生きているということ
それはのどがかわくということ
木漏れ日がまぶしいということ・・

音読を通じて、各連の大事な言葉を拾い上げてつなぎ、卒業・進学を控えた六年生と「生きる」とはどういうことかを考えました。